

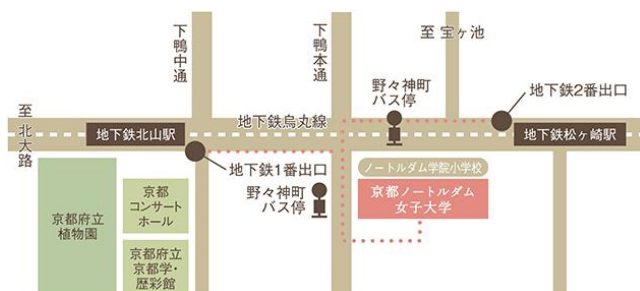
Normalization Seminar 2019

～精神障がいのある方と家族のために～

京都ノートルダム女子大学は、バンク-ミケルセン記念財団を通じて、世界で最も幸せな国の一つであるデンマークの、精神科医ハンス・カルオップ氏をお迎えして、デンマークでは精神障がいのある人がどのように日常生活を過ごしているか、精神医療と福祉の面からの家庭生活支援などについてのセミナーを企画しました。またこのセミナーでは、バンク-ミケルセン記念財団理事長千葉忠夫氏より、デンマークで誕生したノーマライゼーションの理念について講演していただき、幸せな日本の未来について考えます。



日 時：2019年2月16日（土）
午後1時～4時30分（受付12時30分）
会 場：京都ノートルダム女子大学
ユージニア館3階NDホール
（京都市左京区下鴨南野々神町1）
入場無料 申込不要



講師の紹介



ハンス・カルオップ (Hans Kallerup)

1973年 Aarhus 大学医学部卒 専門:家庭医学、精神医学
 1985年 Odense, Aarhus 大学で高齢者精神医学を講義
 2003年 American Academy on Communication in Healthcare in USA
 2007年 Kolding 県立病院高齢者地域精神医療班勤務
 2013年 家庭医学国際シンポジウム講師（東京大学）
 2015年 Greenland 州立病院勤務



千葉忠夫（セミナーでは講演と通訳）

1967年 渡欧、デンマークで社会福祉の実践を学び、現地でソーシャルワーカーとして従事。70年代に生涯の師バンク-ミケルセンに出会う。
 1991年 バンク-ミケルセン記念財団を設立、理事長
 1997年 日欧文化交流学院を設立、日欧交流のための様々な活動を行う。
 現在、デンマークのボーゲンセに在住。

主催：京都ノートルダム女子大学

（お問合せ） 京都ノートルダム女子大学 学事課：075-706-3661・gakuji@notredame.ac.jp
 後援：京都市、京都新聞、公益社団法人京都精神保健福祉推進家族会連合会